

Chuo Vision 2025

中央大学 中長期事業計画 第2期

中央大学は「實地應用ノ素ヲ養フ」の建学の精神のもと、全学の叡智を結集して伝統を絶えず更新・革新し、高度かつグローバルな知の実践者として実地応用の力を備え、社会の変革の担い手となる人材を育成しつづけてまいりました。2015年度に策定した中長期事業計画「Chuo Vision 2025」は2021年度に第2期を迎えました。2025年までに中央大学が果たすミッションを掲げ、創立150周年(2035年)へ続く未来に繋げるため、推進してまいります。

■社会環境の変化

- ・ Society5.0におけるIoTやAI等に代表される先進技術の発展
- ・ 国境、情報のボーダレス化に伴うグローバル化が益々加速
- ・ DX(デジタルトランスフォーメーション)と呼ばれる大きな流れの中で情報化の時代に対応可能な人材育成
- ・ ダイバーシティの推進やSDGsの目標達成に向けた社会的な期待と果たすべき役割の増大
- ・ 新型コロナウイルス感染防止と社会活動の両立を図るための新しい生活様式の導入
- ・ 日々の生活と社会の産業構造のありようのパラダイムシフト
- ・ 18歳人口の減少と人生100年時代における学びの形態の多様化

■Mission

「グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成」

■2025年に目指すべき姿

自らの改革を主体的、継続的に実行し、学校法人中央大学の構成員一人ひとりが、教育・研究・社会貢献・国際連携、文化・スポーツ活動等に取り組み、躍動感あふれ、ダイナミックな事業を展開する大学をつくりあげる。変化する大学の姿を絶えず発信し、次代に向けたさらなる発展の原動力とする。

■優先的に取り組むべき課題

1. 学問分野の多様性確保とその訴求性の明確化
学部・研究科の改編・創設、移転事業の着実な遂行とキャンパスの文理融合化の推進
2. 新型コロナウイルス感染症への対策と大学の機能の維持・強化
ICT技術活用、教育の質保証、学修者の視点に立った支援、外的要因の変化に依らず安心・安全な活動ができる環境整備
3. 2025年以降を見据えた実施基盤の強化
学生視点での教育研究支援のための組織再編、事業計画遂行のための財務基盤の確立と予算制度・運用見直し

都心キャンパス整備



新キャンパス外観(イメージ)

■法学部の都心展開について

法学部の都心展開について、2023年度に茗荷谷(文京区)の新校地へ移転予定です。

新キャンパスは新たな法学教育の拠点となるもので、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとしつつ、低層階には、旧駿河台校舎と同じ尖塔型アーチを取り入れた外観となります。

法学部および大学院法学研究科の使用施設のほか、地域貢献として文京区の地域活動センターや保育所などが併設される予定です。



新キャンパス外観(イメージ)昼

新キャンパス外観(イメージ)夜

■駿河台記念館の建て替え

駿河台記念館については、2023年度までに建て替えを行い、専門職大学院法務研究科(ロースクール)及び戦略経営研究科(ビジネススクール)を移転させ、教育研究施設として展開するほか、全学的な利用にも供する予定です。今後、関係機関と調整の上、2023年度からの供用開始に向けて準備を進めてまいります。



※パース図は計画段階のものであり、施工上等の理由により変更となる場合があります

DX 新しい学びの空間 FOREST GATEWAY CHUO が竣工

2021年4月、自然豊かな多摩キャンパスの玄関口に、新しい学びの空間 FOREST GATEWAY CHUO を開設しました。



新たな中央大学の顔となる建物として、あらゆる『知』が集合・発信される空間、学生同士や企業、地域の人々との交流拠点として利用されます。

随所に視認性、多様性、開放性に富む空間設計がなされており、また、SDGsへの取り組みとして、積極的に木材を活用し温かみのある空間とするとともに、標準的な建物と比べエネルギー消費を50%以上削減するなど、省二酸化炭素に資するよう自然環境にも配慮しています。

COVID-19下においては、面接授業と遠隔授業を組み合わせた学びの場を提供していますが、従来の学部ごとに特化された施設に加え、教育のDX(デジタルトランスフォーメーション)に対応したFOREST GATEWAY CHUOを活用することで、変化を続ける環境における新しい学びを大きく伸展させます。

